日本人口学会創設時からの会員である生命表研究で著名な水島治夫九州大学名誉教授（1896～1975）の影響であろうか．日本人口学会の地域部会にはそれぞれ特色があり，その特徴を生かしながら地域の人口研究ネットワークが拡充されることが期待される．来年の日本人口学会九州地域部会は今年と同時期に，福岡大学で開催されることが予定されている．（林　玲子　記）

第96回日本社会学会大会

第96回日本社会学会大会が，10月８日（日）～９日（月・祝）にかけて，立正大学品川キャンパスで開催された．同大会は，社会学における国内最大規模の研究者組織である日本社会学会が主催となり，年に１度開催している．同学会は，社会学が扱うすべての分野を対象とした学会であるため，大会ではセッションが多数設定される．今大会では，通常セッションとして50，テーマセッションとして24，ポスター報告として１のセッションが設けられ，家族，教育，歴史，階層，意識，都市，理論，研究法・調査法などのトピックについて最新の研究成果が報告された．会期中はそれぞれのセッションにおいて，報告者とフロアの間で活発な議論が展開された．また，研究報告に加えて，学会奨励賞の授与式・受賞者講演と，３つのシンポジウムも行われた．国立社会保障・人口問題研究所からは，中村真理子（情報調査分析部研究員）と竹内麻貴（国際関係部室長）が以下の報告を行った．

【一般報告】

- 中村真理子，「未婚者の学歴と性交渉経験――1980年代以降の変遷に注目して」
- 竹内麻貴，「インフォーマル雇用に立ち向かう社会政策の構想　３）自営は育児と両立しやすいのか――ワーク・ファミリー・コンフリクトの就業形態間・内比較」

（竹内麻貴　記）

南部アメリカ人口学会（Southern Demographic Association）年次大会

2023年10月18日（水）から10月20日（金）にかけて南部アメリカ人口学会の年次大会が開催された．本大会では全29のセッションが設置され，出生や死亡，移動といった一般的なセッションから，近年関心の高いCOVID-19や環境問題についてのセッション，あるいは米国南部の人口に焦点を当てたセッションや南部アメリカ人口学会が発行している“Population Research and Policy Review”のためのセッションなど本学会ならではセッションも設置されていた．

報告内容についても様々であり，一般的な定量分析やモデル研究に関する報告から，先行研究のレヴュー報告や近年増加している機械学習による人口推計に関する報告，データ紹介の報告など，他の人口学会と比較して多様な報告形態が容認されている印象を受けた．

著者も“Comparison of Future Projections and Simulation Results of Household Energy Consumption in Japan, 2020-2040”と題し報告を行ったが，人口学に限らず，エネルギー学や家族社会学など様々な分野の専門家から意見を得ることができた．

次年度の大会は開催地が未定であるが本年と同様に10月に開催予定である．関心のある読者は南部アメリカ人口学会の公式ページ（https://sda-demography.org/）より確認されたい．

（井上　希　記）